

2018 年度総合政策学部 FD 活動方針・活動計画

総合政策学部 FD 委員会委員 成田靖子

総合政策学部では、現代社会の諸問題について、学生が文明論の視点から複眼的に認識・分析し、解決策を立案できるようになるために、今年度も様々な活動に取り組んでいく。

まず、学生が基本的なリテラシーや語学力を効率よく身につけ、様々な場面でそれらを効果的に運用できるよう工夫を重ねていきたい。総合政策学部の特色の一つである南山短期アジア留学プログラム (NAP) は、今年度から政策研修プログラムと科目名が変更され、学科科目に位置づけられたが、これまで同様、語学教育とフィールドワークを通して、当該国・地域についての理解を深めると共に、その経験を今後の勉学に活かすことができるよう、事前授業でしっかりと研究計画を立て、帰国後には質の高い成果報告ができるよう指導する。

また、講演会や外交講座なども積極的に開催し、特定のテーマについて掘り下げて考察する機会を提供する。これらの講座や講演会は、教員がそれぞれの専門性をさらに高めるとともに、研究の幅を広げるきっかけにもなる。

さらに、昨年度から全学的に積極的な WebClass の活用が求められている現状を踏まえ、総合政策学部においても、WebClass のより効果的な活用方法等について、日常的に情報交換を行う機会を設ける。

教員の研究活動に関しては、これをより活性化させるため、学内外の資金を利用した学部共同研究の立ち上げについて検討する。

これらの活動方針を着実に実現するための一つ的手段として、学外もしくは学内講師を招いて FD 講演会を開催し、教員の FD 活動に対する意識の向上を図っていく。

以上